

特別支援教育研究会「コネクト」活動報告

初等教育科 大 関 美 鈴

1. 特別支援教育研究会について

私たち特別支援教育研究会「コネクト」は、今年度新しく発足した研究会である。

保育や教育の現場では、クラスに配慮の必要な子どもが増加しているといわれている。

将来、教員や保育者として配慮の必要な子どもたちの指導に携わってくために、まず「知ること」や「楽しむこと」から始めることにした。

今年は、昨年度、子どもの心理研究会に所属していた2年生11名と新たに1年生1名を加えて、計12名で活動をスタートした。

2. 放課後デイサービスでの短期ボランティア

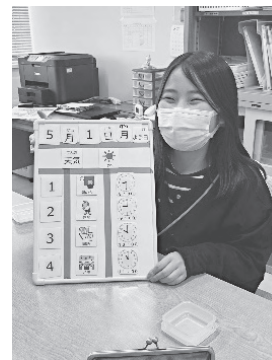
別府市の放課後デイサービス「エイトあっぷ」で、短期ボランティアを行った。別府市3か所の事業所に分かれて参加した。事業所の活動内容や関わり方など説明を受け、実際に障がいのある子どもたちと触れ合い支援の方法について学んだ。短い時間ではあったが、直接子どもと触れ合い、コミュニケーションの方法や特性に応じた関わり方などを学ぶことができた。

3. 特別支援教育教材の作成

自閉症の子どもたちが見通しを持つためのスケジュールボードや自立活動の教材であるプットイン教材や感覚遊び教材等を作成した。幼児教育の現場でも活用できる教材を実際に作成したことで、特別支援の子どもたちへの配慮すべき点や、教材の種類等知ることができた。

(1) スケジュールボード

見通しを持たせ視覚的にわかりやすくするために、時間割を絵カードで作成した。○時間目、教科、初めの時刻など必要な情報を取り入れた作成方法を学んだ。



(2) 自立活動教材（プットイン教材）



手指の巧緻性や情緒の安定、集中力を高めるなどの目的で使用する自立活動の教材作成にチャレンジした。プットイン教材は、ビー玉やコインなどを穴に落としていく課題のことをいう。100均や身近なものを使って簡単に作る方法について学んだ。

(3) 感覚教材

まずはスヌーズレンについて学び、「光」「映像」「音」「温度」「触覚」「臭い・香り」「味」「揺れ」など様々な刺激の中から自分が好む感覚や、落ち着いた空間の中でリラックスをする目的について理解し感覚教材の作成を行った。空のペットボトルに、ビーズや色紙、ビー玉、短く切ったストローなどを入れ、最後に液体のりとお水を入れ、感覚ボトルを完成させた。ペットボ

トルを動かしたり、光にかざしたりすることで、情緒の安定につながる。誰にでも簡単に作れることやきれいな仕上がりに驚きの声も聞かれた。



その他、子どもたちが大好きなスライムやトルネードを手作りし、触ったり、見たりして感覚を味わい、子どもたちと同じように楽しむことができた。



4. 令和5年度ウインターフェスティバル

令和5年11月29日（水）ビーコンプラザにおいて行われたウインターフェスティバルでは展示を行った。今年度の活動の中から、放課後デ

イサービスでの短期ボランティア体験の紹介や感覚教材の作成等について紹介した。各グループに分かれて、活動を思い出しながら、写真や絵を取り入れて作成したため、わかりやすいものになった。



5. 今後の課題

昨年度子どもの心理研究会に所属していたメンバーがそのまま本研究会に所属したため、活動内容等昨年との違いに戸惑う様子が見られた。また、実習等でスケジュールがなかなか合わないという課題もあったが、体験や教材作成に積極的に取り組む姿に意識の高さを感じた。今後の保育や教育に活かしていけると考えられる。

今年度発足した研究会で、手探り状態だったが、今後、特別支援学校の見学や障がい児施設等でのボランティアなど幅広い活動を実施していきたい。